



普通の日～自分が好きを育てる～

12月23日（金）2学期終業式校長講話より

登校日数 84 日の 2 学期が終わろうとしています。新型コロナウイルス感染症の影響をうけた日もありましたが、学級閉鎖や臨時休業になることなく、84 日間学校を開くことができました。とてもありがたいと思っています。

2 学期には、多くの行事がありました。9 月の八坂ふれあい運動会、やまびこ祭、10 月に 3 年生の奈良・京都修学旅行、山村留学の皆さんの収穫祭、小学生がやってくる学びの合宿、生徒会の選挙や引き継ぎ、そのほか部活動の大会やテストや、そばの学習ややさか人間塾の活動など、本当にたくさんのことがあり、君たちが確実に成長していることを感じました。

行事では企画したり、準備をしたり、いろいろな分担をして役割を果たしたりして、協力することが不可欠です。また、日常を離れて、いつもとは違う自分に気づいたり、友だちの新たな面に気づいたりすると思います。そういうことの一つ一つが、君たちを成長させてくれます。

しかし、今日お話ししたいのは、特別なことなんて何もない日のことです。実り多い、行事の多い 2 学期ですが、やっぱり一番多いのは、何にもない普通の日です。

たとえば、今週の水曜日、なにか特別なことはありましたか。あれがあった日だ！と思う人は少ないと思います。普通に授業が 5 時間の日でした。

水曜日の授業の様子 省略

3 年生は思いやりに満ちている教室です。

2 年生のユーモアに満ちている教室です。

1 年の教室は、好奇心に満ちて、なんでも楽しむことのできる人たちの教室です。

ここで紹介したことのほかにも、皆さんとは様々な会話を交わしました。

私が、皆さんと一緒に過ごした国語の数時間は、普通の日普通の数時間です。当たり前のことですが、私たちの生活のほとんどが特に事件や行事のない、普通の日であり普通の時間です。

さて、八坂小学校と八坂中学校では、「自分が好きと言える子ども」の育成をめざしています。自分が好きと言えるということは、とても難しいことだと思っています。私はずっとどうしたら「自分が好き」といえるようになるのか、考えていました。その一つの考え方について、お話しします。

さきほど、何でもない日の 1 年から 3 年の国語の授業について話しました。私にとって、とてもいい時間でした。この気持ちを分析して考えると、「この教室は居心地がいいな、自分はここに自分の居場所があるな」と感じる「**所属感**」がありました。「この人達となら、安心して冗談を言ったり、勉強したり、失敗しても大丈夫だな」と感じる「**信頼感**」がありました。「この人達のために何かしたい、この人を心地よくしたい」と感じる「**貢献感**」がありました。

所属感、信頼感、貢献感 この 3 つがあって、私たちは「好きと言える自分」を育てていけると感じています。

今、自分が好きと言えないひとでも大丈夫です。「自分が好き」がすぐに大きくなる人、徐々にゆっくり大きくなる人、ときどきその気持ちがしぼんでしまう人、いろいろな人がいます。大切なのは、自分でゆっくり育てること、そしてお互いに育て合うことだと感じています。

3 学期は、比較的行事も少なく、日常が続きます。3 年生は、受験シーズンでもあります。その中で「**所属感**」「**信頼感**」「**貢献感**」のある、八坂中学校にしましょう。

明日から、13 日間の冬休みです。1 月 6 日、元気に会いましょう。